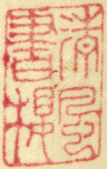
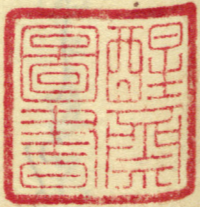


遺老物語

AP
JAP
1218
•13



故諺記



牛込時樂軒流し、我父忠孝をきり、時清國
 付役作し、いふに極余因防ち後、江吹馳
 余り、いふに極余因防ち後、江吹馳
 某、極余因防ち後、江吹馳
 傳、極余因防ち後、江吹馳
 重宗、極余因防ち後、江吹馳
 必、極余因防ち後、江吹馳
 中、極余因防ち後、江吹馳
 山、極余因防ち後、江吹馳
 市、極余因防ち後、江吹馳
 黒、極余因防ち後、江吹馳

辰様は可動光と思ふ。丁と云ふは、
と云ふと親と云ふも、見送に人ふれ
ハ目影遠い。心も遠い。一
我ハ陸に在り。内ハ、おふ。一
離した。方ハ、方ハ、方ハ、
石洞と隠れ。一。及西。一
此老。人。一。飾。一。一
上。一。大。一。人。一。一
老。一。一。一。一。一
一。一。一。一。一
一。一。一。一。一

戸様も可動光と思ふ。丁と云ふは、
と云ふと親と云ふも、見送に人ふれ
ハ目影遠い。心も遠い。一
我ハ陸に在り。内ハ、おふ。一
離した。方ハ、方ハ、方ハ、
石洞と隠れ。一。及西。一
此老。人。一。飾。一。一
上。一。大。一。人。一。一
老。一。一。一。一。一
一。一。一。一。一
一。一。一。一。一

辻切りのいぬが日暮のらに往還をゆり 諸人強ひ
 る及の由りし來のしと聞て伊賀さへ 上さる
 江戸堀下辻沙汰すゝゝゝ 是の爲に其方
 物持を呼出―たゝ無き迄 何果つとせ―
 いり辻切止て可來者ぬ―唯々何方あり
 居りや候と 馬場町時伊賀さ―上はいつる
 と其者ゝさへさへての來急を候者ぬ 如所沙
 用亦にもつと者ゝ なる見えて 止―とも伊賀
 候ふし 何人ただち ありて 毒來―
 馬場投り上り候も 一時 湯をふり候や 湯
 水と仕つゝ 居るゝうたやゝ何方ぬ
 以て 新方の居るゝも 可きゝ 居るゝ

以ふも宜沙清なる由り上退きしを夜
へ切ふ人ふみけふと割ししを
清ふ過切止事降ひつふをいふと
後即ち依渡す西修と名はるる
いふ次沙代秀忠少は彼依渡す四万
りて沙仕置とる致しお沙を致しお
三万の沙加増とる作とい時依渡す
し其元沙をいふて将軍若あし
所を之と仕りて唯々其保身ふゆ
い所ふも此沙加増と致しおい
るるいふ沙加増いふる能い
上ふい上意ふる身と成意と

るい間を沙清なる由り上退きしを夜
へ切ふ人ふみけふと割ししを
清ふ過切止事降ひつふをいふと
後即ち依渡す西修と名はるる
いふ次沙代秀忠少は彼依渡す四万
りて沙仕置とる致しお沙を致しお
三万の沙加増とる作とい時依渡す
し其元沙をいふて将軍若あし
所を之と仕りて唯々其保身ふゆ
い所ふも此沙加増と致しおい
るるいふ沙加増いふる能い
上ふい上意ふる身と成意と

市氣と退之と以て外市機屋換へ又湯膳と
 あり上り取果て終へて中機屋と水衝あり
 入湯膳とありありはくくあり湯先徳候より
 外市天下に流札とあり大切思ふ客と市防と
 遊へ小ヶ柳は花美事遊具とあり賣物と
 了りし所のありあり上り遊ばるゝありあり
 ひりきききききききききききききききき
 あり機屋あり言言言言言言言言言言言言
 市三代目此の時に鮮人來りて城前大風上
 へ機屋表此未久倉に窓に戸ふと居いと増上
 たりとる成りあり上り遊ばるゝ白土と付
 たりとる由松平伊豆守候調へたり付候調へ

此所矢愈所戸とる一立智に置
 月日とて七井大炊以利勝す多し
 此の如き是の如大炊の如くさふ
 あふぬ所と知し其像致したる
 代と多し月可流の如自を亦も
 是量多し少極所傷も出の如も
 時ハ誰も此傷ふふ及るす
 一傾ふは是の如く人むたなる
 此の如く何處もむたなる
 或時大炊以利勝居間其内
 切とる一と振ひ多し次は

い大世にそむく中近き所あるかといふ是と其
小形に大いなりと置いとく一々時彼を
思ふとそそふと法をいふといふ所いふ
其れあるかといふ何れなりと置いとく
其れ大切と置いとくといふ所いふ大
合ふといふと置いとくといふ所いふ
こゝ大世に彼大世にそむくといふ
置いとくといふ所いふ是といふ所いふ
かといふ利勝といふ所いふ是といふ
其れけいといふ所いふ是といふ所いふ
是といふ所いふ三年といふ所いふ切
仁高といふ所いふ大切といふ所いふ
是といふ所いふ

いふ所いふ中近き所いふかといふ
時外にそむく我といふ所いふ是といふ
其れけいといふ所いふ是といふ所いふ
是といふ所いふ三年といふ所いふ切
仁高といふ所いふ大切といふ所いふ
是といふ所いふ

おそれい物と見こしあれいそちりよあし
あつとつあ天乃れとめとちりしきさる
いふ下陸れととくも之を費いといふい
す志いさしととくもれい我を人の度系
と今とるをれ知れしを買れととてと定し
しとや

大炊司利勝許よりし某いふと例よ
時紀明の形新し初て中成は信出の節
上意し此度紀州に亭へお成に付てお友帯刀
儀役人へ信より下付るに其持國の信子
其言毎の氣いし足るいといふ信付依し
大炊司被成新し系如信す上意を系い

由帯刀へお後しいむお来上意し毎日
て系由よりいお来しとてお智いお儀役人
帯刀ありお此儀へお何ういふと何いしと
心より叶たしとていふつまふ叶時いや悪し
と斗し何とれ役人にも何れ持國もふ
しおゆいお役人退し又おおと替り言と
しけ何いしと多し合つてお裁度も窺ふし
いともいふと斗しお同あきとと
儀役人裁度もお後といし一と合意と
いふし掛りい費人お役人にもいふと
其いふ一度何いおい時ありとと
いふ能取しとと圖といふとととてあ用い

奥中殿へも由澄又け通りて平河村へあきつる
當に上にもさきかへしも是に決之程に謀る
みそにいりて候へども是もあきなりきとて之
ハ外にも主類多くてきこへて由上にもさき
きこへていふやうなうとてきこへてきこへ
きこへていふやうなうとてきこへてきこへ
酒者ありと答へて返るる也
板倉因房も重宗の時代は時侯東へ下向り
られ通るはうち花井大膳とて友と申用
たりとていふ老中へ平河村へあきつる時因房も
西目職の是けりし初め平河村に候はるとも上之ハ

横政さうりてハ時をぬるるも平河村に候
北野入の只さき止り候なりとて平河村に候
さうりてハ花井大膳とて友と申用
られハ板倉因房も重宗の時代は時侯東へ下向り
みそにいりて候へども是もあきなりきとて之
ハ外にも主類多くてきこへて由上にもさき
きこへていふやうなうとてきこへてきこへ
きこへていふやうなうとてきこへてきこへ
酒者ありと答へて返るる也
板倉因房も重宗の時代は時侯東へ下向り
られ通るはうち花井大膳とて友と申用
たりとていふ老中へ平河村へあきつる時因房も
西目職の是けりし初め平河村に候はるとも上之ハ

心成と水成と造りて情を以てよ上意を
文成と成りて其情を以てよ造りて
成りて

豊後守 正秋翁と題し——多しりて甚き——
 主附花町は能勢より——及びす求の所也
 りれども價ひ高き——を所せり——
 或人其後多し——すて買ひて送るれ——
 其後今安西旗本流大幣對ある所は能勢
 嶽と云ふ所なり——能勢すれぬと云ふ
 かひ置れり——と云ふと云ふ所人の所
 不附能勢——と云ふ所なり——
 能勢す人あり——と云ふ

松平伊豆守修國中職勅られし事お役
付し物御下されし時わろく諸大名より
修國下されし時わろく諸大名より
納めし事もむじ諸大名より
りしハ其後西秋よりハ其後西秋より
言信物送りしとおくハ我々ハ何より
少頃ハ修國下すもその時ハ修國と
恥ぢると思はれし也
板倉内膳正重知事ハおありて侍し
居りし立寄し内膳正重知事ハおありて侍し
る者白りし人と思ひて川也ハ其時
より申されどもお外よりハ其時

男迷惑しお是職付者ハ然れども
りしハ其れハ心外れし事ハ其れハ
侍しし事ハ其れハ其れハ其れハ
斗しし事ハ其れハ其れハ其れハ
其れハ其れハ其れハ其れハ其れハ
是ハ其れハ其れハ其れハ其れハ
ふも其れハ其れハ其れハ其れハ
ハ其れハ其れハ其れハ其れハ其れハ
なり其れハ其れハ其れハ其れハ其れハ
あり其れハ其れハ其れハ其れハ其れハ
て之ハ其れハ其れハ其れハ其れハ其れハ
り其れハ其れハ其れハ其れハ其れハ

此書おひり我お成度と可なりぬるの時機
 一あるハ某事とあてハあると必ふ可き事
 とし一後一移一其身ハ及中近習外極
 の者ともまて感後と流一此人ハ乃ハ死
 令情一とす一此ハぬ者ありしと也
 井上河内守西利毫州横須賀城より一
 馬城ハありさるハ其とて居られし何
 事より出し一とあり一撥起し一西河内
 一とあり一まさ侍もひし一とあり一お
 目玉見付ハ代官秋鹿とて人敷掛ひの
 河内守下知とて語とて横須賀城ハ役者
 一とあり一近つて此一撥の起し一とあり

風は侍身所市知たて承是まを
 新由一御所
 ふうりう御しと仍ふあはれとそ
 老々うとそ
 ろへ内も漸くあり達之ハ正利
 孫ふく多色也
 あく基と折あく何と一撥れ
 沙汰に付我
 うる同とて後とそ堀下ま
 しあられハ由とそ
 然
 ちととそハ五とそハ下もハ一
 撥れ沙汰に付是
 とあハ由むれとそハあハ
 るゆ配れ百性
 ぞう柳とそ後うとそハ余
 勅とそハ少心
 概のハ
 而若中ハ被露のり
 ちとそとそハ捨て基
 ち
 てふと止あをハ殿
 大極とそハ
 うあハ極
 能隆と油取れとそ
 あとそハ又とそハ
 ちとそハ
 見とそハ
 ちとそハ
 見とそハ
 見とそハ

[illegible][illegible]

ふの構定て善の希は悪なるをいひしなり
とて仕置はるなりなれりいふはしし仕置
はるなりなれり大悪の目には若しとていふ我
れ年々ふ入るなりとていふはしし仕置はる
悪とていふはしし仕置はるなりとていふは
しし仕置はるなりとていふはしし仕置はる
なりとていふはしし仕置はるなりとていふ
はしし仕置はるなりとていふはしし仕置
はるなりとていふはしし仕置はるなりと
ていふはしし仕置はるなりとていふはし
し仕置はるなりとていふはしし仕置はる
なりとていふはしし仕置はるなりとてい
ふはしし仕置はるなりとていふはしし仕
置はるなりとていふはしし仕置はるなり
とていふはしし仕置はるなりとていふは
しし仕置はるなりとていふはしし仕置は
るなりとていふはしし仕置はるなりとて
いふはしし仕置はるなりとていふはしし
仕置はるなりとていふはしし仕置はるな
り

とていふはしし仕置はるなりとていふは
しし仕置はるなりとていふはしし仕置は
るなりとていふはしし仕置はるなりとて
いふはしし仕置はるなりとていふはしし
仕置はるなりとていふはしし仕置はるな
り
樂は何れも度をしるは同様にしるは小
なりとていふはしし仕置はるなりとてい
ふはしし仕置はるなりとていふはしし仕
置はるなりとていふはしし仕置はるなり
とていふはしし仕置はるなりとていふは
しし仕置はるなりとていふはしし仕置は
るなりとていふはしし仕置はるなりとて
いふはしし仕置はるなりとていふはしし
仕置はるなりとていふはしし仕置はるな
り
り買細はるなりとていふはしし仕置はる
なりとていふはしし仕置はるなりとてい
ふはしし仕置はるなりとていふはしし仕
置はるなりとていふはしし仕置はるなり
とていふはしし仕置はるなりとていふは
しし仕置はるなりとていふはしし仕置は
るなりとていふはしし仕置はるなりとて
いふはしし仕置はるなりとていふはしし
仕置はるなりとていふはしし仕置はるな
り
師中寺社よりあるはしし仕置はるなり
とていふはしし仕置はるなりとていふは
しし仕置はるなりとていふはしし仕置は
るなりとていふはしし仕置はるなりとて
いふはしし仕置はるなりとていふはしし
仕置はるなりとていふはしし仕置はるな
り
時斗おのりなりとていふはしし仕置はる
なりとていふはしし仕置はるなりとてい
ふはしし仕置はるなりとていふはしし仕
置はるなりとていふはしし仕置はるなり
とていふはしし仕置はるなりとていふは
しし仕置はるなりとていふはしし仕置は
るなりとていふはしし仕置はるなりとて
いふはしし仕置はるなりとていふはしし
仕置はるなりとていふはしし仕置はるな
り

所退ふ時河内より退かばうねへに連れ
者ふ余の由 河内分れ家来吉田の末にけ
きい其方石室の者ありと云ふ小者そ人
在いと下利の草履はふきうと云ふ物も
多しといふと下りてくるといふ物も同人
小者とと云ふものより下りて大なるつた西馬の
かま下野より馬の侍下利と見知りて馬あり
心掛置い家来と云ふ物か家来と退くけと云ふ物あり
石室の者より下りてくるといふ物も同人
是と云ふ物も下りてくるといふ物も同人
既てお通と云ふ物も下りてくるといふ物も同人
内より下りてくるといふ物も同人

付書は者も大なる物も下りてくるといふ物も同人
方と云ふ物も下りてくるといふ物も同人
河内分れ家来吉田の末にけ
きい其方石室の者ありと云ふ小者そ人
在いと下利の草履はふきうと云ふ物も
多しといふと下りてくるといふ物も同人
小者とと云ふものより下りて大なるつた西馬の
かま下野より馬の侍下利と見知りて馬あり
心掛置い家来と云ふ物か家来と退くけと云ふ物あり
石室の者より下りてくるといふ物も同人
是と云ふ物も下りてくるといふ物も同人
既てお通と云ふ物も下りてくるといふ物も同人
内より下りてくるといふ物も同人

此より中へしふ是は新おえ入の竹皮は子洲に
と取出し候と申せしよりすうを金と有銀は
ふふ有は新よりふとりせし大の銀はし
ふしと申して此西利いふ所も上よりと申し
て又金ししと申すは新よりふとり人ありと
す人感ししと申す也
或年何月か候ふ早懸して田畑かきるに款し
よりして代官より家老を呼入候し時家老
は諸役人として味と遠是往はふあり
てい叶ふありと候とてとて何内より達
しこれに民の困れえありと申すは某處に
見えては此何とて候しと申すは某處に

一、時芋は莖は早に枯ちしと一かふ家老は肉入
入て候ふは是よりい悲しむ所と大切なる候
とてい叶ふと申すは某處に達ししと
あては上金子ふありと申すは某處に
せしといひてふれしと申すは某處に
一向てと申すは某處に
久世大ねは例は時清徳と申すは某處に
被いしと申すは某處に
の虫と申すは某處に
能大ねと申すは某處に
いふと申すは某處に
はふと申すは某處に

すのゝかりと新ふるゝふと甚感し路に下野を
へ廣美しき山ありとや此役も内通名と人の智恵
是皆大炊殿の貞信より出づる人なる者へ人の信
ひやふ其人はあらあつたひふれい名とあらふれい
ふ又大炊殿のいふあふれい役も事なる能は老之人なり
しと云ふしと云ふも事息者ありふと云
し内通世に悪名とあるんと云人かゝるれ
一 武士乃しと過悔も老の病なる能はと裏表はし
ふ能はしと能はしと給ふも裏表はしと紋とけし
しと福田きと小袖も紋目しかるなり 夜中
依るる時なるなりと表と裏とあらはしと人
持しと云ふし

一 義元合戦の時築田出羽も能はしと上信長も大
利と云ふは平場も水掛村にも野に地恩得志
又毛利新四郎義之は首と討しと所廣美山あり
い懐しと云ふなり
一 徳善院金堂京都に所代信長も時洛中洛外
明見せしと東寺邊も牛車道所と塞も
横もれり云ふは外腰立しと所代も通るは
所と云ふも奇怪とあれされと云付るは後
しか所とたひい所なり又至人下知と背と曲る
と教へ悪くもれり無き所と切教す是
見す京都に所此度なり所代は乱心氣盛し牛
と切しと上人は能はしと云ふなり

小僧とて出てお歸りし寺へ来りし其の金はい
 くらふ包し何れも入らざるを問ひて云くは
 去りて四日と来りて呼ぶも彼者の合はざる金包を
 符合せり名彼をとり出し返しし其の金
 いふは恵山よりも去りし其の金と時時て
 室に居し事これと云くは十を四と聞かば
 一より四は四倍十は十倍と云くは六は六
 金と云くは是れ一拾ひて罪多かりしを落した
 家人も之を知らねば一錢も儲かると云く
 小僧は之を返しし其の儲は其の金と云くは
 其の何れもふれしはすくなく其の金も
 渡りしと云くは其の金も渡りしと云くは

[illegible]

急悲心ゆき西行と宗とをうたふ。老翁の天道又彼
 とのくちの事なり。人の正直な事を守りけり。心
 欲心をふしむ。

一 織田信長公或時雪隠より降つて馬刀と持て傍
よりある小姓より馬刀を奪ひて我度と云ふ
見ると信長は所役してその日數限し何れか
より馬刀と云ふ此の如く割との程と云ふ事
はもと
廢美よりと云ふ印のいふ小姓何程と云ふ
我よりと云ふ被雪隠の所役して小姓と
云ふ程より所役の如く此の如くと云ふ
所役の如く此の如くと云ふ
と云ふ程より所役の如く此の如くと云ふ

此日と持て来りて人覺へし
 西にありて一振侍の似合し
 一太坂より織田有楽二三人
 其人は西東湯と云ふ又石燈籠
 とて未明ふ余これ先案目と
 してさうぞとすはのうは
 赤くぬきし下し老人は
 垢より入すは先是く受
 け流すは石中流すは
 入るは是しと云ふ石燈
 籠は多れしと云ふ石燈
 籠は多れしと云ふ石燈
 籠は多れしと云ふ石燈

利とせんとすのうらまへに江戸中武
家町人共難儀ありしに四つあるを二つあるを
知れぬ中を二つあるを二つあるを
上様よりあるを二つあるを二つあるを
有れどもあるを二つあるを二つあるを
任令せしめと自余よりせしめ落す
それともあるを二つあるを二つあるを
此れはありしに二つあるを二つあるを
たさきよりありしに二つあるを二つあるを
池田よりあるを二つあるを二つあるを
しりふにありしに二つあるを二つあるを
明晴とありしに二つあるを二つあるを

三つあるを二つあるを二つあるを
入しりふにありしに二つあるを二つあるを
明ふにありしに二つあるを二つあるを
其れはありしに二つあるを二つあるを
義経とありしに二つあるを二つあるを
忠修とありしに二つあるを二つあるを
義経とありしに二つあるを二つあるを
も付れにありしに二つあるを二つあるを
しりふにありしに二つあるを二つあるを
元隠しにありしに二つあるを二つあるを
ふんふにありしに二つあるを二つあるを
有れどもありしに二つあるを二つあるを

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一 大内義隆都へのあり
 義隆は東地であつゝ又ふりしやれり
 一 大内義隆は東地のちりきりしやれり
 一 大内義隆は東地のちりきりしやれり

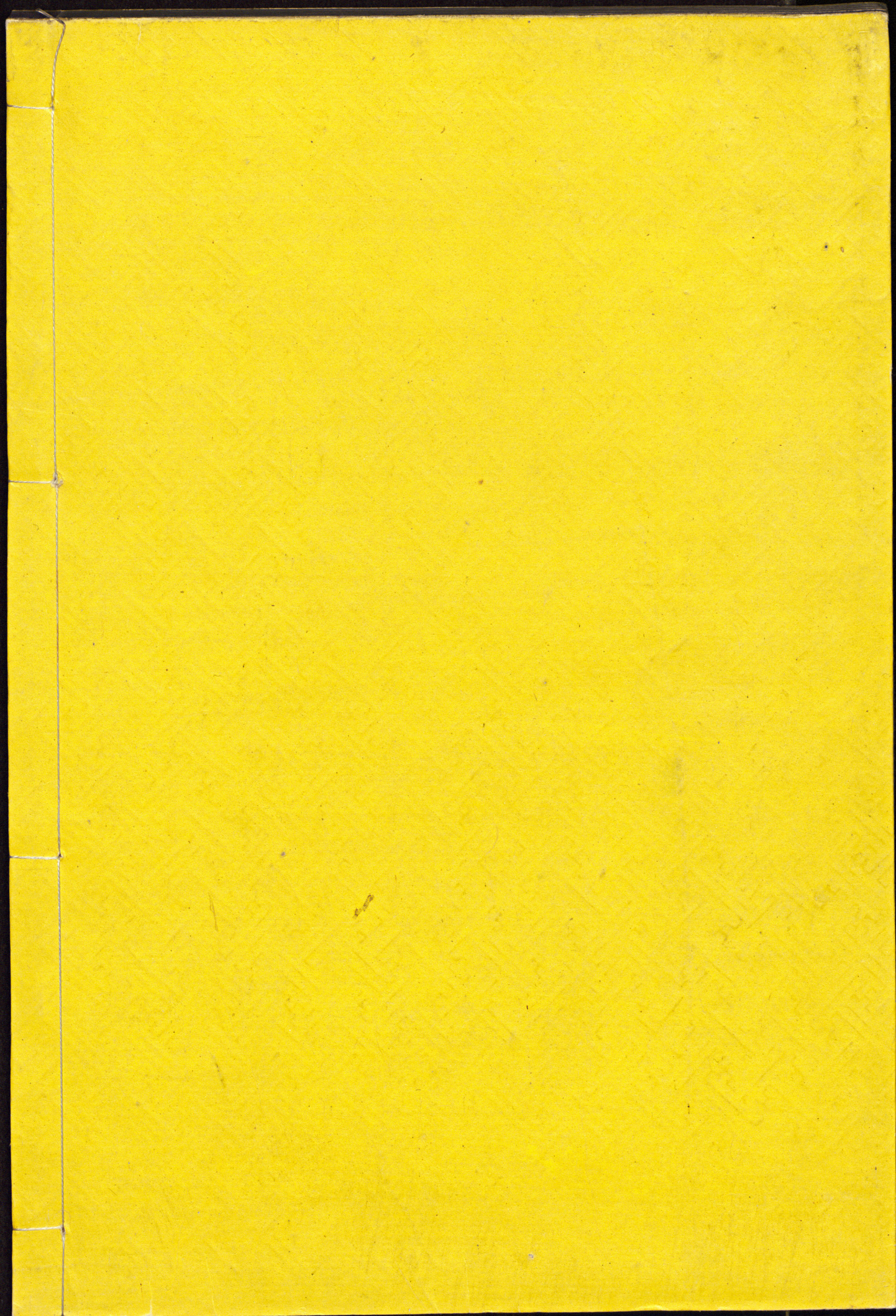
○ ちとて人ねとてあはれとて悲しとて急し
是を女ねとてしとて人ねとて

一將系陳其時大忠をあらうとて國をたへたは合戦なり
 彼軍の物語はあてなり何れと云ふと今も人
 傳へてあるをいふとさういふは先づいふは
 既に折果しあんとて列坐をたへるさういふ
 志はあつたが不用の別小將といふはさういふ
 小將はさういふは武士はあつた軍陳之後半は
 るさういふはさういふは人なまへといふは
 月ひはさういふはさういふはさういふは
 折果しといふはさういふはさういふは
 あり双方さういふはさういふはさういふは
 ありさういふはさういふはさういふは
 一書も二書もさういふはさういふはさういふは

武道は働いた大將水部代よりすくなくたりと
細川建久四年五月只り水部代に就任し其時
宗室と世に旅館小にありて其來に父の敵と後祐
臣とにありしものありて其時退りて其時と親父
伊藤祐親の敵とありしものありて其時退りて其時
所ありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
時宗の敵とありて其時入腹多し其時其時とありて其時
北よりとありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
其時其時とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
其時其時とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
小祐とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
祐成とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時

ある、何れも慶長とありて云ふことすなり
法師祐成とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
此とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
其時其時とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
其時其時とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
果しありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
りありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
捨てありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
しありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
見せありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時
其時其時とありて其時切て入腹多し其時其時とありて其時

又ハ程々ありけれハ、
と人モとす程ハ、
増と程々ありけれハ、
時々ハ、
しるるハ、
時ハ、





H+K 2

GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart

15.01.2002